

黒潮生物研究財団 研究助成 平成23年度 募集要項

1. 趣旨

黒潮生物研究財団では、十分な資金を持たない学生や市井の研究者の研究に対して助成を行うことにより、次世代の研究者、地域と密着した研究者の育成を図ることを目的として研究助成を行っています。

この助成制度は平成17年度に設立され、これまでに延べ31人の方々に助成を行ってきました。これまでの応募者には初めて助成制度に応募される方が多いので、面倒な会計処理や研究内容等についての条件を少なくし、研究費の補助として学生にも手軽に利用していただけることを目指しています。今年度も5件程度の募集を行いますので、奮ってご応募下さい。

2. 助成の対象

黒潮生物研究財団設立の目的に添う研究であれば、応募者の身分や研究の実施場所、研究分野を問いません。ただし、営利を目的とするものは対象としません。

黒潮生物研究財団設立の目的

サンゴ礁海域と温帯海域の中間点に位置し、黒潮の影響を色濃く反映する生物群集が形成されている高知県において、黒潮流域における環境と生物との関わりを調査研究し、地域の環境生物学的特性の理解を図り、他地域との比較を行い、情報の収集、整理及び発信を行い、もって環境の変動に対する自然環境保全対策の推進に資するとともに、人類と野生生物が共存可能な社会の創造に寄与することを目的とする。

3. 応募資格

大学卒論生、研究生、専攻科生、大学院生、その他一般の研究者

※学生の場合は、指導教官の推薦が必要です。

※指導教官のいない研究者の場合は、他薦の推薦者が必要です。

4. 助成対象となる費用

実験や調査に使用する器具備品費、材料費、調査に必要な旅費、施設や設備の使用料など、直接研究に必要な費用が助成対象になります。研究協力者や補助員に対する謝礼を含めることはできませんが、給与とみなされるものは助成の対象にはなりません。

なお、申請した研究について、研究室の研究費や他の助成金等をあわせて使用することは差し支えありませんが、研究全体の費用の大まかな内訳を呈示していただき、研究が確実に遂行される根拠を示していただきます。

5. 助成規模

1件につき20万円以内。5～6件程度。

6. 助成期間

原則として平成22年4月1日から、申請者の希望により1～3年間。

※助成期間3年というのは、助成金を3回給付するという意味ではありません。

最初に給付した助成金を使って3年間で研究を行うという意味です。

7. 応募方法

所定の申請書に必要事項を記入し、郵送で当財団宛にお送り下さい。電子メール、ファックスでは受け付けません。2月末日の消印まで有効。

なお、応募を受け付けた時は、電子メールにより受け付けた旨を連絡します。応募して1週間以上経っても連絡がないときはご確認下さい。

申請書の送り先

〒788-0333 高知県幡多郡大月町西泊560-イ 黒潮生物研究財団 助成係

8. 選考方法

当財団の理事及び評議員の審査により、専務理事が採否を決定します。審査員は研究者ばかりではありませんし、英語に堪能な人ばかりでもありません。申請書は日本語で、一般の人にもわかりやすい表現で書かれることを勧めます。本要項の末尾に過去に採用された助成研究のタイトルを記しておきます。また、財団ホームページに平成17年度～20年度の助成研究結果報告書が掲載されています(http://www.kuroshio.or.jp/set_osirase.htm)。参考にしてください。

採否は4月上旬に応募者に通知します。採用した助成研究については、財団ホームページに氏名と研究タイトルを公表します。

[審査員]

理 事

理 事 長 深田 純子(ステラケミファ株式会社 代表取締役会長)

専務理事 岩瀬 文人(黒潮生物研究所 所長)

理 事 亀崎 直樹(神戸市立須磨海浜水族園 園長)

理 事 深見 公雄(高知大学 副学長)

理 事 松岡 和男(医療法人四万十会 監事)

理 事 和田 康嗣(有限会社ブルーハーバー 代表取締役)

評議員

内田 紘臣(株式会社串本海中公園センター 名誉館長)

神田 優 (特定非営利活動法人 黒潮実感センター センター長理事)

澤田 佳長(野生生物環境研究センター 所長)
鍋島 克人(高知県林業振興・環境部 環境共生課長)
長山 健二(大月町 教育長)
宮崎 勝年(足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会 会長)
山岡 耕作(高知大学 教育研究部 総合科学系 黒潮圏総合科学部門 教授)
横地 洋之(東海大学 海洋研究所 准教授)
依岡 良彦(すくも湾漁業協同組合 理事)

9. 助成金の交付

採用された研究に対する助成金は、応募者が指定した振込口座に遅くとも5月に振り込まれます。

10. 助成をうけた者の義務

- 当財団所定の様式により、研究の概要について報告書を提出していただきます。提出していただいた報告書は、当財団のホームページに公表します。また、報告書の内容は機関誌「CURRENT」や紀要「Kuroshio Biosphere」等に掲載することがあります。
- 助成をうけた研究の成果を学会等で発表し、あるいは論文等として公表する場合には、当財団の助成を受けたことを明記してください。出版された論文等は、別刷り1部を財団宛にお送り下さい。
- 年度末に財団の主催する講演会において研究成果について発表していただきます。この場合、旅費等は当財団から別途支給します。
- 原則として、申請した研究計画に添って研究を行っていただきますが、やむを得ず変更のある時には、前もって財団の承認を受けて下さい。助成金の用途の変更についても同様です。

11. これまでの助成研究

平成17年度

- 岩本太志 高知県室戸岬沿岸に來遊するアカウミガメの食性
- 執行絵美子 サンゴ食巻貝シロレイシダマシ類による集団形成の謎に迫る！
- 中尾絵津子 サンゴの白化現象に対する細菌類の影響について
- 的場洋右 サンゴが周辺海域の水質環境に与える影響
- 宮本麻衣 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入

平成18年度

- 甲斐清香 環境条件がサンゴの生存、成長、繁殖に及ぼす影響
～環境に対するサンゴの適応方法の解明～
- 加藤芽衣 サンゴ食巻貝Drupella類の誘因物質の探索。
- 原口展子 高知県西部海域のホンダワラ類の分布変化について。
- 松島夏苗 巻貝による造礁サンゴ食害：温帯域における新規脅威種の実態調査。
- 的場洋右 サンゴが周辺海域の水質環境に与える影響。
- 宮本麻衣 四国西南海域における造礁サンゴ群集の動態と幼生加入に関する研究。

平成19年度

- 加藤芽衣 サンゴ食巻貝の行動から見る集合体形成要因の解明
- 玉井玲子 藻食性動物と栄養塩が小サンゴ群体の生存と成長に及ぼす影響
- 宮本麻衣 四国西南海域におけるハナヤサイサンゴ科2種の生活史に関する研究
- 依藤実樹子 ムカデミノウミウシの地理的分布拡大に伴う適応と進化
- 渡邊美穂 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入

平成20年度

- 石原 孝 黒潮流域のアカウミガメの年齢推定
- ケシャムルティ・シャシャンク 粘液を介したサンゴと周辺海水中の細菌群集の相互作用
- 山崎敦子 黒潮が育む高緯度のサンゴ礁環境変動の復元
- 山下 洋 四国サンゴ礁における褐虫藻検出に関する研究
～サンゴ内及び周辺環境からの検出～
- 渡邊美穂 四国西南海域における造礁サンゴ幼生加入の季節変化

平成21年度

- 岡本 慶 クロウミガメの出現記録の整理と黒潮流域のアオウミガメとの形態比較
- 上野 大輔 四国黒潮流域における魚類寄生虫相の解明
- Lien Yi-Ting 温帯域の造礁サンゴに内部共生する褐虫藻タイプ“C”の
ITSを用いた遺伝的解析
- 長谷川 亮太 四国西南海域における造礁サンゴの幼生加入に及ぼす付着生物の影響

平成22年度

- 齊藤 宏 可視、近赤外画像によるサンゴ健康度モニタリング手法の開発
- 田中隼人 砂のすきまに潜む「生きた化石」貝形虫類の分布と分散経路の解明
- 畠山えり子 日本沿岸に生息するエダミドリイシ集団の遺伝的的特性の解明
- 広瀬雅人 四国黒潮流域における大型コケムシ群集の多様性と群集構造の変化
- 藤田純太 川と海を回遊するエビ類における黒潮の分布障壁機能
～高知県仁淀川と沖縄本島間の地理的隔離～
- 優谷真理 日本周辺海域に生息するアカウミガメ、アオウミガメの受けている
物理的ストレスの評価

ご質問、お問い合わせは、
黒潮生物研究所 岩瀬 まで

電話0880-62-7077 FAX 0880-62-7078 E-mail iwase@kuroshio.or.jp